

009 5G を活用した防災訓練の実証実験

取組主体

三菱地所株式会社/ソフトバンク株式会社

従業員数

899人/17,100人

想定災害

地震等

実施地域

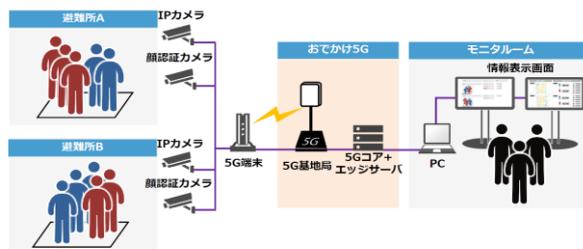
東京都

- 避難所の映像を第 5 世代移动通信システム（5G）で伝送し、AI で分析することで、混雑具合に応じた適切な避難所への誘導や要救護者の検知等に活用できることを確認した。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

5G ネットワークを利用して転送した避難所の映像を AI で処理

- 三菱地所株式会社は、第 5 世代移动通信システム（5G）を用いて、自社が運営する東京都丸の内エリアのビル内に仮設した避難所の状況をリアルタイムでモニターする実証実験を行った。
- 同実証実験では、ソフトバンク株式会社が開発した、電波品質の高い 5G ネットワークを局地的に提供できる可搬型 5G 設備「おでかけ 5G」をビル内に設置した。
- ビル内の 2 か所の避難所に設置したカメラにより、避難所の映像をモニタールームでリアルタイムで可視化することができ、また、株式会社フューチャースタンドが開発した AI 映像解析ソフトウェアを使用して 5G ネットワークサーバ上で処理することにより、「避難所内の避難者数、救護者数」「属性（性別、年代等）の判定」「避難所の混雑状況」「顔認証による救護者の識別」「要救護者の検知」等を分析することに成功した。
- これにより、発災時の避難所でのオペレーションが高度化・省力化され、混雑具合に応じた適切な避難所への誘導や救護者の適切な人員配置、必要な物資の数や種類の選定等、非常時の判断や対応を円滑に進めることができることを確認した。



実証実験の仕組み



要救護者の検知の様子

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 早急に安定したローカルネットワークを構築できる「おでかけ 5G」を設置することで、人口が密集する都市部における有事の際にも局地的に 5G ネットワークを提供できることから、都市部のエリア防災の取組に活用できる可能性を確認した。

3 現状の課題・今後の展開等

- 要救護者検知機能について、検知条件が限定的であり、避難者が特定したポーズをとる必要があった。実際の防災の現場で活用するには、より多くのポーズを AI に学習させる等の改良が必要である。

担当者の声

- 今回の実証実験により、発災時における 5G の有用性が確認できました。今後は、防災を含めた街の様々なシーンにおける 5G の活用検討を進めていきます。

問合せ先

三菱地所株式会社 法人番号：2010001008774 TEL：03-3287-6970